

令和7年度

学校推薦型選抜・社会人選抜

小論文 解答例 (80分)

注 意

1. **試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。**
2. この問題冊子は、表紙を含めて2ページあります。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明・汚れ、ページの落丁・乱丁等に気付いた場合は、手を挙げて監督員に知らせてください。
4. 解答用紙の定められた欄に、**氏名と受験番号を監督員の指示に従って記入してください。**
5. 解答は、解答用紙の定められたところに記入してください。
6. 色付き紙1枚は下書き用紙です。下書き用紙に書かれたものは、採点の対象とはしません。
7. 問題冊子と下書き用紙は、持ち帰ってください。

【出題意図】

以下に列挙する点を見る。

- ① 文章で記述された内容を正確に把握し、着目すべき主題を正しく抽出できている。
- ② 図から労働者1人平均の年間総実労働の推移について読み取ることができている。
- ③ 労働時間の減少によって得られる時間の有効な活用方法を考えることができる。
- ④ 与えられた条件での、メリットやデメリットについての考えを記述できている。

【解答例】

- 氏名，受験番号を正確に記入すること。
- ※欄には何も記入しないこと。

解答用紙

氏名		受験番号							
----	--	------	--	--	--	--	--	--	--

図から「一般労働者」の労働者1人平均の年間総実労働時間は2000年の2026時間から2022年には1948時間へと減少している。同様に、「パートタイム労働者」は、1168時間から955時間へと減少しており、パートタイム労働者の年間総実労働時間の方が減少幅が大きい。両者を合わせた「労働者全体」も減少傾向にある。2020年の減少は新型コロナウイルス感染症拡大のため、緊急事態宣言発令による行動制限によって出勤できない状況になり労働時間が減少したものと予想される。

労働時間が減少した場合、働く方々が得られた時間を本人のニーズを満たす、充実感が得られることに使用することが有効であると考ええる。例えば、育児や介護に使う人もいるだろうし、自身のスキルアップのための学習をしたり、他にも趣味にあてたり、副業に時間を使う人もいと考えられる。いずれも、ワークライフバランスを考慮した時間の有効活用が必要であると考ええる。

「働き方改革」を実現する方法の一つである「ICTを活用したテレワーク」を導入する場合のメリットは、通勤にかかると時間や金銭、労力を他のことに使えることである。また、ICTスキルが向上すると考えられる。Zoomなどを用いたオンラインの会議では、顔を見ながら手話でのコミュニケーションをしたり、チャットによる文字コミュニケーションのスキルも向上すると考えられる。自宅でテレワークをする場合だと、会議の時以外は服装が自由にできたり、休憩を取りやすく、育児や介護も行いやすい。デメリットはまず運動不足になることである。通勤にかかると時間を健康を維持するために使うことが必要となる。また、顔を合わせないので、職場の同僚の詳細の様子がわかりにくく、チームワークを発揮しにくい。さらに、業務上何かわからないことが出てきたときに、周りの人達への相談が難しいのではないかと考えられる。

200

400

600

800

